



学校だより



11月号

歴史の流れの中で、今思うこと

10月、6年生が広島に修学旅行に行きました。事前に、戦争について調べ、それぞれが「戦争と平和」について考えた後のまとめの学習として訪れた広島の地。子供たちの感想の中で、次のような文章が目にとまりました。

- ・資料館で見た原爆のむごさと平和公園の碑に刻まれていた文字から人々の叫びを感じ、平和というものがどれだけ大切かということがよくわかった。
- ・貞子さんの折った折鶴がとても小さいのに驚いたと同時に、「生きたい」という強い思いが伝わってきた。
- ・今、白いご飯を食べているような普通なのが平和で、幸せなことだということがわかった。
- ・原爆がどれだけ人々を苦しめ悲しめ、つらい思いをさせたかということがわかった。
- ・戦争は、人の心・体・命を傷つけ奪うものだと思った。
- ・原爆によって命を落とした人はもちろんだが、生き残っても苦しい思いが続いていることを知った。

子供たちは、実際に原爆ドームや原爆の子どもの像を目の前にし、語り部の方の話や原爆資料館を見学したりするなかで、一人ひとりが真剣に、「原爆・戦争」について考えることができました。戦争・原爆がもたらした傷跡は、いつまでも残り、人々の体と心を苦しめていることを知りました。そして、当たり前だと思っている平和な日々の暮らしが、幸せなことであることに気づきました。平和の尊さを実感した子供たちは、戦争・原爆を体験した人々の思いが、今現在も引き継がれていること、そして、これから自分たちが引き継いでいかなければならないという思いを新たにしたいようです。いつの時代も、その時代に生きる人々の働きが、現在につながっていること、そして、100周年を迎える平野小学校も、先人の方々の働きがあったからこそ、現在があるのだと実感しました。

コスモスの花が風に揺れ、私たちにやさしく語りかけてくれる今日、学校では、毎日、音楽会に向けて素敵な音楽が響き渡り、平和である喜びを感じます。しかも、今年は、創立100周年記念音楽会であり、平野小学校最後となる音楽会でもあります。教師も子供たちも、100年の歴史と伝統を、みんなで喜び、祝いたいと毎日練習に励んでいます。平野小学校の100年のあゆみを振り返りながら、子供たちの演奏を味わっていただきたいと思います。子供たち一人ひとりが、練習の成果を発揮し、最後の音楽会を満足感いっぱいでお終えられるよう、ご協力をお願いいたします。

『一人ひとりの心に、素敵な思い出として残りますように・・・』

校長 小川 信子